

芸術作品は体の部分を用いてその作家の構想と材料が一体化する創造力が、五感で認識されるような形態として現れたものである。自然と芸術は生命の復活を促す。その創作にはたらいだ創造性が生命の根源である力とつながっているから人は癒される。生活が芸術であると言われる由縁は生活が創造の産物であるからである。生活が創造的であるときにはじめて、人が生き返らせられ、生き生きと生きていくことができるならば、生活は創造性を発現させるようにあらなければならない。創造性の発現は主体である内性的感覚が対象である外形的素材に働きかけるとき起こる一体性の「エキスタシス」であるように、個人においては心と体の一体化、家庭においては人と人の一体化、万物においては人と自然の一体化、人工物において人ともものとの一体化した時に起こる力であり、かたちである。このような一体化・共生が成立する関係の「エキスタシス」を愛と呼ぶならば、愛がある一体こそ創造的な生活である。特に人工物や社会は自然の法則等（科学性）に従って構成を秩序づけられているから、社会の最少単位である家庭生活は自然について（科学性）学び、人工環境を整備することである。また、生命感とは体の部分を用いて製作した作品や自然の中に強く現れるから、家庭生活では積極的にそれらを取り入れたり、体を使った創作活動を奨励することが望ましい。ヒューマンスケール、ヒューマンツールつまり称して手の届く、手を使った成果物によって、五官で感じとることができる生命感を共有する。それこそ人間と自然が共生できるスケール（範囲）である。そのスケールが家庭生活の新しいモデルを示すであろう。